

特別委員会

観光振興調査 特別委員会

4月25日開催

アクションプランの 現状について

アクションプランの現状
報告として①恵比須、化け
猫、河童伝説、お城下ナイ
トウォークの実施②佐嘉賢
人バッジ12の製作・販売③
中学生向けの修学旅行商品
の開発④戦国・幕末・維新
カレンダーの作成の説明が
あった。

〔質問〕中学生向けの修学
旅行商品で、農業体験や自
然体験をよく聞くが、その
よつな商品はあるのか。
〔答弁〕農業体験等の商品
については、今後検討して
いく。

〔質問〕実際に修学旅行を
誘致する場合、学校側も学
習効果や参加生徒の満足度
を考へて選定すると思つ。
他の自治体も修学旅行の誘

致には積極的であり、なか
なか難しいと思つが、誘致
目標などは考へているのか。

〔答弁〕まだ修学旅行を活
発に受け入れるところまで
至っていないので、まずは
1校でも、誘致数をふやし
ていきたいと考へており、
年間何校などの目標はでき
ていない。

〔質問〕お城下ナイトウォー
クツアーの情報はどのよう
に発信したのか。また、参
加者はどういった人であつ
たのか。

〔答弁〕お城下ナイトウォー
クツアーの内容を伝えるチ
ラシを観光案内所に置き
たり、観光協会のホーム
ページ上でもお城
下ナイトウォーク
ツアーの内容や申
し込み、連絡先等
も入れてPRして
いる。さらにテレ
ビなどのメディア
でも取り上げて

ら、広報に努めている。
また、参加者は、親子連れ
や女性同士のグループなど、
いろいろな層の方が参加し
ており、約1割の方が宿泊
をしたと聞いている。

6月7日開催

講演 「沖繩と佐賀について」

末岡暁美氏を参考人とし
て招き、当特別委員会にお
いてテーマとしている「日
本の近代化を築いた佐賀藩
とその人物群」の中で名前
が挙がり、明治期に沖繩に
わたり活躍した「齋藤用之
助」氏の話を中心に聞き、
意見交換を行った。



用・排水対策 調査特別委員会

4月25日開催

樋門操作関係者との 意見交換

市内の主な樋門の操作関
係者との意見交換を行った。
操作関係者からは「樋門の
開閉時に国、県、市の連携
が取れていない」「河床が
土砂等で埋まっているので
河川改修を」「浮き草で吸
水管がつまり、排水ポンプ
が止まるので早めの除去
を」などの意見が出された。

佐賀江川からの排水 先である南部地域に ついて

新川と接続する尾の島水
門及び八田江と接続する枝
吉水門での県との連携によ
る洪水時の暫定操作フロー
の説明と佐賀江川、八田江
のしゅんせつ工事状況及び
新川のフラップゲートの

施工状況等の説明があった。
〔質問〕水系ごとの樋門管
理のあり方や綿密な体制つ
くりを検討していくべき。

雨季も迫っており、早急な
体制づくりが必要では。
〔答弁〕過去からの経緯を
把握し、今後の世代交代へ
の準備を含めて取り組みた
い。できるだけ早く進めた
いが、今年の雨季までにす
べて完了するのは難しい。

5月17日開催

駅周辺及び愛敬水路 の排水対策、お濠の活 用、大島ポンプの本設 置について

駅周辺と愛敬水路の排水
支障箇所の改善計画、お濠
を活用した雨水の一時貯留
十間堀川から多布施川へ強
制排水する大島ポンプの本
設置について説明があった。

〔意見〕大島ポンプをはじ
めポンプ周辺のごみ除去に
ついては、市がすべて対応
するのは困難であり、樋門

操作管理と同様に地域の方
にお願いすべきである。

〔質問〕黒川は天井川であり、
水位が下がるまで尼寺幹線
水路からの排水はできない。
計画の調整池では容量が足
りないと思つが、どう対応
するのか。

〔答弁〕この事業は国の認
可事業で、10年に一度の確
率の雨量に対応できる計画
に基づいている。それ以上
のことはなかなか難しいが、
機能の充実にについては今後
の課題として検証したい。



樋門操作関係者との意見交換の様子

交通政策 調査特別委員会

2月25日開催

「佐賀市の公共交通に関する市民アンケート」の調査結果について

〔質問〕 回答の約9割がバス路線維持のために積極的な支援が必要との回答で、主に中山間地域及び市南部地域の40歳未満の世代の回答が多かったことを、どう受け止めているのか。

〔答弁〕 若い人もバス利用が少ない現状を理解した上で、高齢者等の交通弱者を思いやる気持ちからの回答であったのではないかと。

〔質問〕 アンケート結果が、市民全体の意向を反映しているかと判断しているのか。

〔答弁〕 回答件数は、サンプル数としてはかなり多いとおおむね、市民の意見は反映されていると考えている。

「佐賀市交通ビジョン（案）」の概要について

〔質問〕 今後の人口推計や需要予測から、市を北部、

中部、南部という分け方をすれば、北部地域が非常に厳しい状況になってくると思う。検討の際には、市全体の公共交通を守るという全体観に立って見ていかなければ、一部地域の切り捨てにつながると思うが。

〔答弁〕 市北部地域については、基本的には今の路線を維持したいと考えている。ただし、その手法は、現状のまま民間バスで運行するのか、デマンドバスやコミュニティバス等に切り替えるのか、検討が必要である。

〔意見〕 佐賀市一律の基準ではなく、地域に応じた基準を設けることは大事であり、その上で地域の方に、地域に応じた形で負担をお願いする視点がなければいけないと考える。このようなことを踏まえて、交通ビジョン策定に取り組んでいただきたい。



行政視察後の委員間の意見交換

5月30日開催

熊本県菊池市及び広島県大竹市の両市とも市民ニーズに十分対応した上で、市の助成を減少させるなど、成功されている事例であった。参考とすべき点が多い視察だったが、本市とは地理的条件等が異なるため、佐賀市独自の検討が必要であるとの見解で一致した。

成功されている事例であった。参考とすべき点が多い視察だったが、本市とは地理的条件等が異なるため、佐賀市独自の検討が必要であるとの見解で一致した。

視察報告

議会運営委員会

日程 4月19日(火)～21日(木)

視察者10名（亀井、重松、野中、松永幹哉、久米、川崎、山口、田中、本田、福島）

①兵庫県加西市 議会運営について／議会活性化の取り組みについて

加西市議会は、平成22年6月に議会基本条例を制定し、同条例に基づき、年2回の議会報告会開催や政務調査費の公開政策検討会の実施、議決前の自由討議の公開等を行い、情報公開や住民参加を積極的に進めています。早稲田大学マニユフェスト研究会が行った2010年議会改革度調査では全国6位の高い評価を受けています。

【所見】

加西市議会は、市長との緊張関係の中で、市民との対話を重視した改革に取り組んでおられました。議会運営の中で特に参考となったのは、議員間の自由討議で、本会議において3名以上の賛同があった場合、賛否の理由等の主張ができる点でした。本市議会とは議会運営に異なった部分が多くありましたが非常に参考になりました。

②山口県周南市 議会運営について／議会改革の取り組みについて

周南市議会は、公開と対話をキーワードとして、政治倫理条例の制定特別委員会の制定や議員報酬の削減などの取り組みが行われていました。また、テーマごとに関係団体との委員懇談会（ミニコン）制度の創設や議員研修会の公開など、市民参加を積極的に進められています。

【所見】

キーワードどおり、本会議のケーブルテレビ放映やミニコンの開催など、公開・対話に積極的な姿勢が印象的でした。特に興味があったのは、議長選挙を毎年議員全員の立候補制で行い、全員協議会において無記名投票で選出しているところでした。本市議会とは異なる部分がありましたが、議会改革については共通点が多いと感じました。



周南市議会議場視察の様子

視察報告

経済企業委員会

日程 4月26日(火)～28日(木)

視察者8名(千綿、中本、重松、久米、川崎、山本、西村、平原)

①富山県富山市 自転車市民共同利用システム(アヴィレ) 企業への農業集落参入促進事業等について

自転車市民共同利用システム(アヴィレ)は、富山市が平成22年から実施した国内初の自転車シェアリング事業。中心市街地のステーション15箇所から、自由に自転車を利用し、任意のステーションに返却することができる。特徴は民間事業者による施設整備及び運営で、その事業費は主にステーション等に掲示する広告収入等で賄っている。なお、24時間利用可能である。

【所見】

利用する自転車はヨーロッパ製でデザイン性に優れ、しかも頑丈で乗り心地も大変よかった。富山市の中心市街地は歩道も幅員が確保され、車歩分離の取り組みも始まっており、適した環境が整っている。ステーションを設置するためにはこうしたインフラ整備が必要であると感じた。



自転車市民共同利用システムのステーションのようす

②石川県金沢市 「加賀野菜」ブランドの取り組み及び農業施策等について

高度経済成長期に栽培・運搬等が容易な交配種が導入され、伝統野菜が全滅の危機を迎えた。平成9年に金沢市農産物ブランド協会を設立し、「加賀野菜」として、加賀レンコン、加賀太キユウリなど、15品目を加賀野菜として認定したのが始まり。その後、平成19年に地域団体商標を取得し、ブランド化している。さらに平成21年度に「加賀野菜取扱店登録制度」、「加賀野菜加工品認証制度」等を導入し、国内外で通用するブランド農産物の確立を目指している。

【所見】

農産物のブランド化は農産物に付加価値をつけて、単価を大きく上げており、農家の所得向上に繋がっているようだ。佐賀市も地産地消のさらなる拡大と市長のトップセールスによる販路拡大を図り、佐賀野菜の知名度アップを図るべきであろう。

③富山市・金沢市での観光事業の広報活動

観光行政を所管する委員会として、視察先で「2011佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」の広報チラシ約2000枚を配布し、観光PRを行った。チラシを受け取っていただいた方の中から一人でも多くの方々が本市に訪問されることを心から祈念したい。



広報チラシ配布のようす(富山駅前にて)

佐賀市議会9月定例会のお知らせ 9月1日(木)午前10時開会(予定)

※正式な日程が決まり次第、市のホームページでお知らせいたします。

編集後記

様々な政治のシステムのなかで、市民の声、とくに少数意見が最も尊重され、適切に調整されるシステムが議会制民主主義であります。しかしながら、空気のようにいつでも、どこでも存在すると思っただけで大間違い。そうでない他国の悲惨な状況を見るたびにそのありがたさを感じます。議会

がしっかりと機能する国は、誤った方向には行かないと私は信じています。今の日本は、地方政治の力量が問われ、議会の役割と責務が増大しています。そのなかで佐賀市議会是一般質問の数も同規模の市と比べ約2倍、平成22年度発表日経グローバル議会改革度調査ランキングでも全国約800議会中23位と上位の評価を頂くなど、継続的な努力の成果もあがってきています。また今年度は9月議会から、決算審査改革に取り組み、議論が具体的に市の施策に反映されるような形に、さらに近づきます。議会だよりも市民の皆様との大きなパイプとなつて、これからも佐賀市議会の改革の大きなエンジンとなれるよう、がんばってまいります。



(永渕義久)